

北九州校友会設立40周年を振り返って

昭和45年にわが母校立命館大学の北九州校友会が発足し、今年40回目の総会が開催されることになりました。

校友各位の協力のもとに、今後ますますの発展を期待して、今総会を40周年記念と銘打って盛大に実施致したいと考えています。

つきましては、今日お集まりの北九州校友会の歴代の役員の方々に、この40年のあしあとを振り返りながら発足当時の苦労話エピソード等の思い出とこれからの校友会に期待することなどを語って頂きたいと思います。

【校友会設立時のエピソード及び

40年間で思い出に残ること・人物】

初村：今日は先輩方よろしくお願いします。

まずは校友会設立時やこの40年間で思い出に残っていることから自由にお話頂ければと思います。

児森：俺が話してあげるよ。北九州校友会の一番最初はね、勝谷さんという方が、昭和43年～44年に北九州大学の庶務課長として、建設局の総務課長から異動してきたんですよ。そのときに私が庶務課員をしていて、同窓だということが分かって、そのときに北九州市役所の総務局にいた奥野さんと三人でスタートしたのが始まりです。それが昭和44年の6月でした。その後、江南建設の社長の江藤さんに話したら、新北九州信用金庫に勤めている天野さんがいるということになり、そのメンバーで北九州校友会を作ろうということになったんですよ。

それから各区で門司から高藤さん、佐藤さん、角田さん、小倉から小林さん、児玉さん、八幡から吉森さん、真鍋さん、戸畑が宮井さん、初

と き 平成23年8月10日（水）

ところ 西鉄イン小倉 居酒屋「つば八」

【出席者】

北九州校友会会長 奥野 照章（昭41・法）
顧問 高藤 昌和（昭31・経済）
副会長 児玉 國廣（昭42・経営）
理事 吉森良一郎（昭33・理工）
理事 児森 喬（昭34・文）
進行役 初村幹事長（昭53・経済）
中西幹事（昭60・文）
（三宅）

村さん、若松から小島さん、小野さんという感じで広がっていった、各支部で様々な卒業生に声をかけていったんですよ。

（古い名簿をみながら）

吉森：江藤さんの思い出はたくさんありますよね。私は昭和33年、土木の卒業で江藤さんとは先輩後輩だったんですよ。高校も一緒だね。江藤さんはボクシング部で周囲からも親分的な存在でしたよ。そして卒業後に昭和35、36年ごろだったかな、江藤さんが同窓会みたいなものを作ろうと言ったんですよ。彼はすごい行動力でいろんなメンバーを集めてきて、俺についてこいてタイプの人でしたからね。

奥野：江藤さんのワンマンショーですね（笑）どちらかというと仕切るタイプでしたからね。

高藤：でも、江藤さんがいたからできたんですよ。草創期にはあのような人がいるんですよ。

児玉：発会式のときも、江藤さんに多くの活躍をして頂きましたからね。

中西：発会式はどのようにしてメンバーを集めた

んですか？今のようメールなどもないと思うのですが…

児玉：さきほどもお話したように各支部に分かれていたでしょう、それで各支部のリーダーが、そのエリアの卒業生に声をかけていったんですよ。でも、小倉が一番出来悪かったな（一同笑）

奥野：久野さんもすごかったですよね。刀剣の鑑定をやらせれば日本一という人でしたからね。

奥野：それにしても江藤さんの江南建設の事務所でよく校友会の会議をやりましたね。奥野会長

児玉：そうそう本当によくやりました。

児森：いつも力強くひっぱってってくれましたからね。

初村：そうすると、みなさんが校友会の活動に参加したきっかけに江藤さんの存在は大きいですね。

奥野：そうそう。騙されてね（一同笑）

児玉：みんなそうじゃない。騙されてというか、脅されてというか（一同笑）

吉森：半ば強引にね（一同笑）吉森理事

児玉：でも、あのころは名簿の作成なんか江藤さんの指示のもと手書きで作ってたんですよ。

中西：へえー すごいですね。今では考えられない作業です。

初村：当時の名簿などがいまだに残っているのは、そのご苦労のおかげがあってですよ。

中西：じゃあ40年間でもっとも思い出に残る先



奥野会長



吉森理事

輩といえどなたでしょう？

児森：設立以来40年間でもっとも思い出に残る人物をあげるのであれば、忘れてはいけないのは天野幹事長の存在っていうのは大きかったですね。

一同：いやいや、江藤先輩。（一同笑い）強引だったしね。

吉森：いろんなところから卒業生の話聞き出してきて、強引に名簿に名前を載せるんですよ。

中西：天野先輩はどれくらいの期間幹事長を務めてらっしゃったんですか？

初村：今年で設立して40年だから、たしか30年くらいになるんじゃないですかね。

児森：そう考えれば天野さんの存在というのは大きかったですね。

中西：その前の5年間で江藤先輩が幹事長だったんですね。

児玉：しかし、今の校友会の礎は高藤先輩が作られものだと思いますよ。まず、若い人、女性を積極的に勧誘して参加してもらったという形は他の校友会にはなかったですからね。

中西：発足当時は男性ばかりだったんですね。奥野：でも、それをしっかりと引き継いでいってここまでの形にしてきたのは、幹事長の初村と三宅さんの功績が大きいよ。

一同：そうだね。ほんとによくやってくれたと思いますよ。

初村：私が幹事長を引き受けたいきさつは、前



児森理事



児玉副会長

幹事長の天野さんが亡くなる一週間前に奥さまから連絡があって、「主人が会いたいと言っているので、ぜひ病院に来てほしい」と。私はかねてより固辞していたのですが、天野先輩はベッドの上で「北九州校友会を頼むぞ」と何度もおっしゃられるので、引き受けた次第なんです。それからこれまでの先輩方の功績を引き継ごうとしっかりと頑張ってきました。

【校友会に対する思いと

これからの校友会活動・後輩に期待すること】

初村：では、みなさんから最後に校友会に対しての思いとこれからの校友会活動及び後輩に期待することをお聞きできればと思いますが。奥野先輩いかがですか？

奥野：私から言うとうね、やはり母校立命館を愛してもらいたい。最近、つくづく思うけど「母校愛」って大事だと思う。震災の一件もあって、「相手を思いやる気持ち」とか「つながり」とかが注目されているけど全般的にそういった感情が少なくなってきたと思う。それは同窓会とかも同じで、もっと立命館大学の卒業生として、母校に対して感謝の気持ちを持ってほしいと思うね。やっぱり「愛」が必要だよ。

吉森：私も奥野さんと一緒です。自分の卒業した学校を愛してほしいね。そして、若い世代の方々には北九州校友会が他のどの校友会よりも活発な会になるよう積極的に参加してほしいね。

高藤：諸行無常。世の中は常に変化するからね。常にその変化に対応できる校友会であって欲しいし、若い校友の方にもそうあって欲しい。

そして自分の母校の後輩の面倒をみることで、さきほど奥野さんのおっしゃっていた「母校愛」を引き継ぐことができると思います。

児玉：北九州校友会は本当に若手校友が頑張ってくれているから、我々役員はそれを全面的にバックアップしていきたいと思う。やはり大学の4年間があったおかげで今の自分が形成されているということをしっかりと認識してもらいたいと思います。

児森：今日、改めて校友会のことについて語って、とても年月の流れを感じました。校友会活動に参加する上で大切なことは立命館大学が好きであるということです。私もこの年まで様々な会のお世話をやってきました。でも、この校友会だけは自分の原点を感じられるのです。校友会のスタートが勝谷さん、奥野さん、そして私ですからね。これだけはずっと続けていきたいと思います。

初村：役員の皆様方、本日は貴重なお話をありがとうございました。



高藤顧問



昔の写真



立命館大学校友会北九州支部発会式 S45.9.8 於 小倉ステーションホテル



立命館大学校友会北九州支部総会 S55.11.18 於 小倉飯店